

令和2年度 公益財団法人山形市文化振興事業団事業計画

1 山寺芭蕉記念館

(1) 展示事業

① 特別展「山寺と紅花 8（仮称）」（9月4日～11月30日）

日本遺産「山寺が支えた紅花文化」に係り、山寺の歴史や紅花の生産と流通に関わる文化、そこで育まれたものや、訪れた文人・墨客にも焦点をあてて紹介する。これまでの企画展「山寺と紅花」のⅠからⅦを総括した展示内容とする。

② 企画展「収蔵名品展 ―書画の美―」（4月10日～7月13日）

㊦長谷川コレクション、潁原退蔵・尾形仂コレクション、他収蔵品の中から書画の名品を選びすぐって展示し、文学的、美術的価値の高い作品を鑑賞する機会とする。

③ 企画展「妖怪と不思議の世界（仮称）」（7月17日～8月31日）

江戸時代から現代まで、妖怪や不思議な伝説・物語に関わる資料や作品を紹介して、日本文化の一端を紹介する。

また、関連事業としてナイトミュージアムを開催して、妖怪の世界を体験する楽しいイベントとする。

④ 企画展「収蔵名品展 ―絵画の美―（仮称）」（12月5日～2月15日）

㊦長谷川コレクション、潁原退蔵・尾形仂コレクション、他収蔵品の中から評価や価値の高い絵画の名品を展示する。それにより、江戸時代の俳画や現代の日本画・油彩画などの作品を通して絵画の魅力を紹介する。

⑤ 企画展「山寺と紅花 9 ―節句の飾りと紅花文化―（仮称）」

（2月19日～4月上旬）

雛人形や武者人形など節句の飾りを展示して、その歴史を紹介する。それと共に、雛人形の裂地に用いられた紅染めにも注目した展示を行い、紅花文化についても焦点をあてる。

(2) 普及啓発事業

① 第63回全国俳句山寺大会（7月12日）

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

② 第12回山寺芭蕉記念館英語俳句大会（7月）

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とする。

③ **第 51 回芭蕉忌俳句大会**（10 月下旬）

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④ **第 29 回山寺芭蕉記念館文化セミナー**（7～8 月、3 月頃）

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかると共に新たな視点を提示する。複数回連続講座。

⑤ **山寺芭蕉記念館ボランティアガイド養成講座 Ⅲ**（仮称）（6～11 月）

「奥の細道」のボランティアガイドを育成する講座を奥の細道マイスターの会・山形大学と連携して開催する。

⑥ **芭蕉を偲んで投句しよう 一般の部・小中学生の部**（通年）

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、投句選を行う。

⑦ **市民茶会**

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑧ **茶房 芭蕉堂**（通年、但し市民茶会開催日を除く）

抹茶の呈茶を行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑨ **山寺感謝の茶会**（11 月頃）

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

⑩ **IT を活用した情報発信**

インターネットを媒体として、ホームページや SNS（フェイスブック）を活用して様々な情報を発信する。広報活動や松尾芭蕉・山寺等に関して積極的に情報を発信する。

⑪ **『山寺芭蕉記念館だより（電子版）』の配信**〔年 1 回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の提供を行ない、山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

2 最上義光歴史館

(1) 展示事業

①企画展「刀装具の美(仮称)」(令和3年2月-令和3年5月)

当館で収蔵する刀装具(鐔、小柄、筭、目貫等)約450点の中から特に意匠が優れているものを選び、実用的なだけでなく芸術性も追及された刀装具の数々を公開し、発注した武士の嗜好による斬新なデザインと極小の匠の技を紹介する。

②常設展示

最上義光を主とした最上家関係資料と山形城関係資料、山形に関わる文化財などを展示紹介しながら下記のテーマで一部コーナー展示を行う。

1) 企画展示Ⅰ「鐵の美2020」(5月-8月)

収蔵刀剣の公開を行い、武器であり美術品でもある日本刀の美しさを紹介する。

2) 企画展示Ⅱ「収蔵名品展 屏風絵(仮称)」(8月-11月)

当館が所蔵する収蔵資料の中から屏風の名品を展示公開する。

3) 企画展示Ⅲ「発掘された山形城(仮称)」(11月-令和3年2月)

当館所蔵の山形城下絵図と共に、山形城三ノ丸の発掘調査で出土した瓦や陶磁器等の埋蔵文化財を展示し、最上義光の時代から近世にかけての山形城の様子を紹介する。

(2) 普及啓発事業

①歴史講座

1) こども講座

小学生を対象に最上義光を学ぶ機会をつくることによって、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

②ボランティアに係わる事業

最上義光と最上家を啓蒙することについて歴史館とともに活動する市民が、ボランティアという形で歴史館のサポーターとなって、来館者の多様化するニーズに応え、きめ細かなサービスの提供を図るとともに、歴史館を核としたコミュニティーを創出する。

1) 「義光塾」〔年3回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

2) 「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等を現地研修し、現地に赴くことによってボランティアが郷土史と文化財に対する知識と理解を深め、来館者に対してより質の高い接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

③ I Tに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開していく。

④『館だより(電子版)』〔年1回〕

事業報告や考察、山形の歴史や最上家に関する情報を広く一般に提供し、最上義光歴史館の文化活動に対する理解を求めることを目的とする。ペーパーレス化を図り、電子版としてホームページ上での配信に移行する。

(3) 調査研究事業

①最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。